

# ISO/TC35 国際会議報告

調査研究部  
井 関 匠 三

今年のISO/TC35（塗料とワニス）国際会議は6月1日(水)～8日(水)の延べ8日間、英国のロンドンのBritish Standards Institution(BSI)にて開催された。その内、6月1日(水)～3日(金)はISO/TC35/SC14の会議が又、後半の6月6日(月)～8日(水)の3日間はTC35/SC9（塗料試験方法）の会議が開催され、SC9会議に出席する機会が与えられたので以下にその概要を報告する。

## ロンドン、BSI

ロンドンの市街はバッキンガム宮殿を中心として北にリージェンツ・パーク、西にハイドパークやケンジントン・ガーデンズ、東にロンドン塔、南にテムズ河がある。

市内には歴史上有名な建造物が随所にあり、地下鉄網が発達して移動は至極便利である。また中心街にはよく整備された広い道路と広大な公園があり、有名な博物館や美術館は無料で開放されていて観光客も多い。昼間の繁華街や地下道にはストリートアーティストがプロ顔負けの腕前で奏でたり、歌ったりでビートルズの国柄を感じさせる。

ケンジントン・ガーデンズを更に西側に進み市街の外れの地下鉄グンナースベリー（Gunnersbury）駅構内に隣接した18階建てのひときわ目立ったビルがBSIだった。受付で訪問目的と会議名、氏名を告げると予め登録しておいたリストに基づいて一人一枚の無記名のカードが渡され、それを通してガードをくぐる。5階は全て会議室になっており14室の大小の部屋が廊下を挟んで四方に配置されていた。会議室はカードを通さないと入室できず、退室時は逆にそれを通してガードを通り抜け、受付にカードを返却してから外に出るよう部外者の不法侵入を徹底して防止するシステムがとられていた。

## 32回TC35会議

今回、出席したのは次の6名である。

筒井 晃一 (TC35/SC9 国内委員会委員長、日本ペイント)  
田中 丈之 (SC9/WG25, 26委員、A&D)  
須賀 茂雄 (SC9/WG25, 26委員、TC156委員、スガ試験機)  
田邊 弘往 (SC9/WG25, 26委員、SC14委員、大日本塗料)  
石丸 泰 (TC35国内委員会事務局、日塗工)  
井関 匠三 (TC35/SC9 国内委員会事務局、日塗検)

参加国は日本、オランダ、英国、ノールウェー、スウェーデン、ドイツ、米国、南ア、韓国、スイスの10カ国で委員会によって参加国と人数は異なるが各会議に20～30名が参加

し、特に、日本、英国、ドイツからの参加者は多く5～6名であった。

会議内容の詳細は別途、SC9国内委員会報告議事録に譲るとして、ここでは所感を含めて印象に残ったことを記す。

## TC35総括会議

3年間、欠員であった委員長にMr. Dave Maggs (AKZO NOBEL・オランダ)が決まり彼が委員会を取り仕切った。各委員からの意見をよく傾聴し、質問に対しては丁寧に相手が納得するよう対応していた。特に、ASTMとの間で2001年にMoU\*があるにもかかわらずいっこうに協調関係が進展していない不満が委員から出たことに対しては、ISO/ASTM実行委員会を発足させて実効を上げていくことが決議された。

\*MoU: (Mutual of Understandingの略) 2001年Pittsburg (USA) 会議の席上でISO/TC35とASTM D01との間で交わされた合意事項。「新しい規格開発はお互いが競い合うようなことはしない。どちらかが進んでいる場合は、一方の規格を世界統一規格にする。また、現有規格のうち同じようなものは極力統一する。」という内容。

## SC9総括会議

昨年、新任したMr. David Heath (英国) が各Working Group (WG) の進捗状況報告と今回実施されたWG23、25および26会議の議事録の確認を行なった。

2年ほど前から会議の資料はPaperlessになり、Hard copyの配布は一切なくなった。今まで会議の総括は、各WG主査の議事録のHard copyでの説明を受けてSC9更にはTC35会議の総括を行い、挙手による賛否でそれを議事録に残すごく丁寧な形をとっていた。しかし、今回のSC9総括会議は、WG主査が口頭で総括報告を行い、SC9事務局がPower pointで画面に出しながら議事録を作成し、出席国の代表者に賛否を問い意見や修正があれば追加し即決してまとめる。極めて効率の良い進行方法がとられた。

今後、会議で意見を通していくには、特に英語圏外からの出席者にはかなりの語学力と技術的判断力および周到な事前準備が問われるそうである。

なお、WG22 (光学的性質) の進捗状況報告の中で日本から新規提案 (NWI) 「マルチカラーの測色法」は技術評価点では高かったが、参加国が5カ国に満たず不採用になり、今後

の反省材料を残すことになった。

#### Delegates meeting (代表者会議)

●ISO市場適合性 (Global relevance of ISO technical work and publications) に関する考え方 (N1269) — Ms. W. M. Stikvoot (TC35秘書)

資料内容の要点説明があった。ここでは詳細は省略するが、特記事項として

- 1) NWI提案前の段階での予備的な準備作業でFeasibility studyを行なうよう委員会が勧告していること。
- 2) 市場適合性のある文章規格策定し当たっては、記述的アプローチ (prescriptive approach) よりも性能的アプローチ (performance approach) を推奨していること、つまり、要求特性を設計、材料、構造などで規定すると世界市場で受け入れられる余地が狭くなるために、目的適合性を保証するためにあくまで性能特性で規定としている点、今後のNWI提案する上での要注意点と考える。

#### WG23 (塗膜の機械的性質)

- 1) ISO/CD 17132(T-Bend test) : 日本提案 (主としてコイルコートに使用されているJIS/EN/ASTM規格を統合する) に対する各国の意見に対する回答を基に協議の結果、日本の主張も入れられたので正式に国際規格案 (DIS) に移行することが決定した。
- 2) Pendulum damping test Part 2 : Determination of effect of temperature on film hardness : 「剛体振子による塗膜硬度の温度効果測定法」は日本で開発された簡便で且つ実用性の高い塗膜の粘弾性測定方法である。将来、日本からNWI提案することを意図して技術的な特徴などについて筒井専門委員が説明した。その結果、3ヶ月以内に意見があればWG23事務局 (ドイツ) に各国から提出し、日本はそれを参考にしてNWI原案をSC9事務局 (英国) に送るかどうかを検討することになる。

#### WG25 (塗膜の環境試験)

- 1) ISO/CD 17872 (Method of scribing panels for corrosion test) : これは日本提案の「塗膜への傷のつけ方に関するガイドライン」で錆び試験の全般にわたる問題でもありASTMを含めメンバーの関心度が高い。委員間で協議の結果、Convenor (英国) が集約して意見調整のうえ、今後DISにするかどうかを決める。
- 2) ISO/9227 (耐食性試験) およびISO/11997-2 (複合サイクル試験)  
TC156 (鉄鋼関連製品) とのリエゾン関係にあり、共用できる試験方法は出来るだけ統一する方針で昨年度の国際会議からの懸案事項であった。須賀委員の方から進捗

状況について説明した。

#### SC9/WG26 (性能試験)

- 1) NWI (ドイツ提案) に関して下記の2件の説明があった  
項目 日本の見解  
a) Kempf法による塗膜の白亜化法 : 約75年前からある試験方法  
b) 高分子塗膜の耐酸性雨試験 : 自動車塗膜として技術的問題は解決済み  
正式な投票期限 (本年8月末) までには国内委員会意見を集約して提出する。

#### Welcome party

7日19時からAKZO Nobelの招待でKingstone Close Hotelの一室を借り切って開かれた。新任のTC35委員長の長い就任演説の後、乾杯に続いて会食に入り途中で、功労者であるMr. Reinmueller (SC2、SC9/WG23&WG26、SC10事務局) の表彰式があった。料理は比較的簡素なものであったが和やかな雰囲気の中で、楽しい一時を過ごした。

#### おわりに

会議スケジュールがぎっしり詰め込まれたごく短い滞在期間であったが、Key-manとの意思疎通が図れたことは有意義であった。日本の活動が進みISOの中で着実に認められつつあることを実感した。昨年に続き韓国から同じメンバー2名が参加していたことは今後、近隣のパートナー国として有望と感じた。

今回の会議を通じて日本提案のNWIを通していくためにはP-メンバーの理解を得て、5カ国以上の賛同国獲得の事前工作が必要なことを痛感した。今後、欧米先進国の理解を得る努力とともに差詰めアジア圏で韓国、中国との連携を進捗することも重要で、具体的な方策については関係各位と良く協議しご支援とご協力をいただくことが必要不可欠と考える。



会議参加者 (田邊、須賀、石丸、筒井、田中、井関)